

関係者様

平成18年 7月22日

平成18年度 「まち」とともに歩む学校づくり懇話会（報告）

I 日 時 平成18年7月22日 10:30～12:00

II 場 所 上中里小学校 校長室

III 内 容

1 開会の言葉

2 学校長挨拶

- ・「まちとともに歩む学校づくり懇話会」の目的
- ・学校アンケートの結果からのお礼
- ・町内会、学援隊へのお礼

3 委員出席者（敬称略）

横浜市立浜中学校校長	堀内 早苗
神奈川県立磯子高校校長	佐藤 亮一
上中里団地自治会会長・上中里小学校学援隊代表	大石 裕
大崎団地自治会会長	大島 龍彦
横浜市立上中里小学校PTA会長	原 洋久
横浜市立上中里小学校PTA副会長	椎野 弘子
上中里小学校校長	坂田 映子
副校長	加曾利 一之
教諭	後藤 洋介
教諭	近藤 久美子
教諭	正木 良雄

以上11名

4 「さわの里小学校」づくりに向けて経過と今後の予定

- 氷取沢小との交流計画
 - ・年間の行事、児童・職員の交流計画、教育課程について
- 建設計画
 - ・工事の内容と見通し
- 19年度体験学習案の提示
 - ・4, 5, 6年の体験学習、修学旅行計画案の説明
- 校歌・校章制定委員委嘱依頼について
- 平成18年度 上中里小学校学校アンケートについて
 - ・結果と回答の公表と報告

5 懇話 一意見交換一

〈学校づくり〉

- ・校歌・校章委員の委嘱
- ・作曲を作曲家横山裕美子氏にお願いする。
- ・町内会、自治会には、「さわの里小学校 校章・校歌作成にあたってのお願い」を24日付けで本校職員が届ける。
- ・統合後の学級数は、現在とほぼ同様であり、学級の人数が増えるだけになる。

〈小、中、高等学校より〉

- ・学校マニフェストについて、数値目標を明示することが新聞に掲載されていた。評価・実態・課題は地域、各校によって千差万別で外部はそれをどう評価するかが課題。
- ・市長が「教育にてこを入れる」というふうに聞いている。
- ・学校には、マイナス点が出たときに世間からの指摘が多くなる。
- ・義務教育から高校へ進学することは、バナナの皮をむくようにはいかない。5%の生徒に問題があり対応に追われる。そのほとんどは、家庭に問題を抱えている。親の世代の変わり目。学習環境の整備に時間がかかる。教科教育に力を入れたい。小学校からの協力をお願いし、中学校、高校へとつなげたい。

〈子どもに関して〉

- ・子どもがずいぶん変わってきた。部活の中学生もはっぱをかけるとマイナス効果である。まるで忍

耐力がない。褒めてもその意味を理解していない。精神的に育っておらず、言葉で理解、表現する力が弱い。

- ・ 部活動で人間関係が育たない。関係づくりに機能していない。
- ・ 子どもに「生きる力」と「耐える力」が不足している。
- ・ 表現力（言葉、文字による）の弱さが目立つ。
- ・ 本校の子どもたちは、人間関係でもまれていない。鍛えることが必要だ。
- ・ 競争の必要性、抵抗力をつける教育の必要性を感じる。「負け」からの学びが大きい。
- ・ 「精神的にしっかりした子」を育てたい。
- ・ それが一番大事なこともかもしれない。すぐに痛がる、弱音を吐く、アピールすることが多すぎる。
- ・ 小さいころの教育がその後に響く→大変さを体験させるようにすることも必要。

〈教職員に関して〉

- ・ 職員間でも、意識の差が大きい。差を埋めなければならない。
- ・ 教師の資質を向上させることも大事。
- ・ 保護者対応の資質向上が教師に必要。すぐに謝るばかりではだめだと思う。

〈保護者に関して〉

- ・ 大人の資質も問われている。無責任な大人が多い。
- ・ 保護者からの苦情の件数は多いのか。→本年度は直接の相談は一件もない。担任の対応で解決している。職員が努力していることが評価できる。
- ・ 保護者と学校の信頼関係づくりが子育てに大事である。父親の存在、学校との話し合いが必要であると考えられる。
- ・ 学校の引越しのお手伝いを自治会、町内会で支援していきたい。是非相談してほしい。

6 お礼の言葉（学校長）

7 終わりの言葉

ご協力ありがとうございました。

欠席者 上中里町内会
磯子台住宅自治会